



大阪部会(第 41 回)

日 時: 2014 年 11 月 29 日(土) 18:00~20:20

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 41 回の大阪部会の出席者は 12 名。

(1)まず、経済教育ネットワーク野間敏克理事(同志社大学)から最近および今後の活動報告があり、あとで篠原聡一代表(同志社大学)から補足された。11月15日に日本大学で開催された「先生のための秋の経済教室」、来年1月31日に名古屋で開催される「先生のための冬の経済教室」、2月14日に川口市で開催されるワークショップなどについての報告であった。また、次年度の「先生のための夏の経済教室」の日程も決まり、大阪では8月6日に高校の部、8月7日に中学の部が実施されることになった。

(2)次に、山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、みつつの授業実践報告があった。①前回報告された「マンションの耐震化工事」公共財ゲーム(日本大学中川雅之氏作成)のグループワーク授業に対する、生徒たちからの感想が紹介された。ゲームの趣旨と含意を理解し、公共財を供給するための問題解決策にまで至った者もいれば、あまり理解できなかった者もいる。②それと関連して、文化遺産登録、絶滅危惧種の保護、漁獲量の国家間協定の意義などを考えさせる教材が紹介された。山本氏からは、個人の身の回りで起きそうなマンション耐震化工事の話よりも、国際的な、漁獲量協定の話などの方が、「公共財」の大切さと困難さを理解しやすいよだとの指摘があった。それに対して、①と②の間にはだいぶ距離があるので、マンションの話と漁獲量協定の話とをつなぐ題材がもう一段階必要なのではないかとの指摘があった。③最後に、「先生のための夏の経済教室」を授業に活かした例として、アベノミクスに関連する自作の試験問題が紹介された。

なお、山本氏からは数研出版社「AGORA」のNo.62が配布された。山本氏による時事問題の整理とあわせて、2014年に大幅変更された国際収支関連統計についての、日本銀行による解説が掲載されている。

(3)続いて、李洪俊氏(大阪市立長吉中学校)から、自身で作成・実施した公民の試験問題が紹介された。図、グラフなどを使って見やすく作られており、穴埋め、選択問題、記述式と多彩な出題形式が組み合わされている。授業内容との関連づけ、試験実施後の試験活用のしかた、適度な出来具合に生徒を導くことの難しさ、などにも触れられた。

(4)奥田修一郎氏(大阪狭山市立南中学校)から、授業内容と試験問題との関係についての新しい提案があった。これまでも、日本教材文化研究財団の調査研究シリーズなどにおいて、授業をどのように構成して、事実に思考判断、理論的思考・推理、価値的思考・判断を身につけさせ、それらをどのようなテスト問題によって評価するかという点が調査・研究されてきた。奥田氏は、それに加えて、逆に、試験評価問題を分析し、実際の授業がイメージできるかどうかによって、授業と試験との関連づ



けが適正にされているかどうかを検討してはどうかというのである。

奥田氏は実際に、2013 年度に実施された全国公立高校の入試問題を題材にとりあげ、いくつかの特徴的な入試問題について、その問題の背後には、どのような授業構成が考えられるかを示した。非常に興味深く現場教員への恩恵が計り知れない試みであるが、今回の部会では十分に時間がとれなかったため、あらためて議論の機会をもうけられればと思う。

(5)最後に、河原和之氏（立命館大学等）から、日本経済教育センターの地理教材の最新版「カナダを知ろう」が紹介された、インド、ブラジル、南アフリカ、ASEANと作成されてきたシリーズの一環であり、今回も楽しく学べる教材となっている。カナダの場合、移民の多さや英仏二言語という特徴があり、同様に移民が多いオーストラリアも作成してはという要望があった。

（文責 野間敏克）

次回開催予定： 2015 年 2 月 28 日（土）、時間は 18:00～20:00、場所は未定。